農業の新しい技術

№545　（平成17年 8月）
分類コード　01－04
熊　本　県　農　政　部

県育成ニガウリF_1品種「熊研ＢＰ１号」の特性

農業研究センター 農産園芸研究所 野菜研究室
担当者：林田 慎一

研究のねらい

ニガウリは近年、食に対する健康志向の影響もあり全国的に消費需要が高まっている。県内においても主にスイカ、メロンからの転換品目、または組み合わせ品目として導入が進み、平成16年産の共販面積は60ha以上と急増している。

しかし、本県では苦みが強く、果実の長いニガウリが従来から栽培・流通されてきたこともあり、現在でもそのような形状のニガウリ栽培が多い。一方、大都市の消費地で流通しているニガウリは短形で苦みの少ない‘ゴーヤータイプ’が主流であるため、消費地での本県ニガウリの評価は高くない。

これらのことから、今後、本県ニガウリ生産における商品レベルの統一と品質向上を図り、他県産地との競合に勝ち抜くために、消費者の求める食味、果実品質の優れる県オリジナル品種の開発に取り組み県オリジナルブランドの確立に資する。

研 究 の 成 果

多収で果実形質が優れるゴーヤータイプのニガウリF_1品種「熊研ＢＰ１号」を育成した。その特性は以下のとおりである。

１．果皮色は濃緑で、果実の形状は肩張りが良く、胴太りし、やや短形である。

２．こぶ状突起の形状は、ゴーヤータイプでの県内主力品種の「えらぶ」より大きく、丸い。こぶ状突起のそりはややそるが、「えらぶ」より少ない。

３．苦みは少なく、「えらぶ」と同程度。

４．３月末定植作型での商品果収量は、「えらぶ」よりやや多い。

５．種子親が雌性型であるため、F_1のである「熊研ＢＰ１号」の採種コストが抑えられる。

普及上の留意点

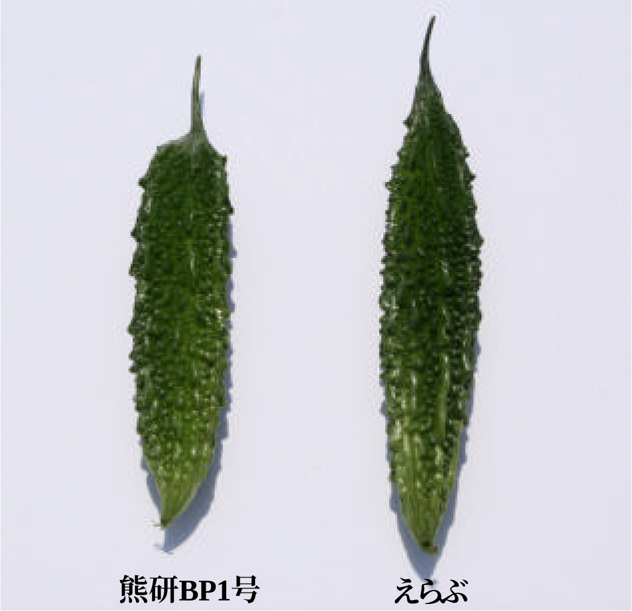
１．雌花節率の高い系統であり低温短日期には雄花が非常に少なくなる。

２．作型は３月定植中心の半促成栽培とする。

【成果を説明するデータ】

表１　果実特性

品種・系統	果皮色	果形	肩部	こぶの高さ・形状	苦み	果重(g)
熊研ＢＰ１号	濃緑	やや短い	張る	中間、やや尖る	少ない	２６０
えらぶ	濃緑	やや長い	やや流れる	やや高く、尖る	少ない	２７９



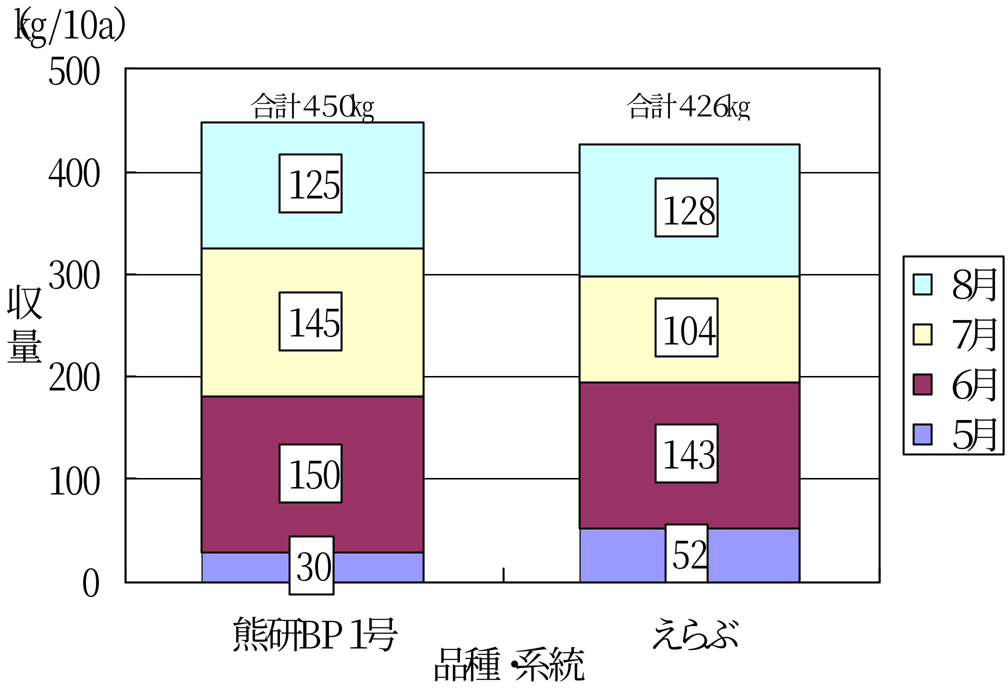


図1 時期別商品果収量